

幼稚園教諭一種免許状、保育士資格、社会福祉士国家試験受験資格を 4年間で取得できるカリキュラムのあり方—3校の比較から—

松原弘子¹

宮城学院女子大学教育学部教育学科幼児教育専攻（以下、本学）は、幼稚園教諭一種免許状（以下、幼免一種）、保育士資格、社会福祉士資格の3資格が4年間で取得できるカリキュラムを有している。同様の3資格取得が可能とウェブサイトで謳っている大学は、2019年12月時点で本学、白梅学園大学、富山国際大学、熊本学園大学の4大学に留まっていた。社会福祉士養成課程では、2021年度からカリキュラムが改定されるため、時間割の維持の困難さから、各大学ともカリキュラムの見直しを図っている。社会福祉士養成課程は、4年制大学では2021年度から改定されたカリキュラム（以下、新カリキュラム）に切り替わる。新カリキュラムでは科目数が減るが、現在の実習時間180時間が240時間に増やされるほか、社会福祉士と精神保健福祉士の共通科目が広がるなど、大きく変更される。複数の大学が資格課程の募集停止を進める中で、新カリキュラムでの養成課程を維持する他大学はどのような方針で養成課程を運営しているのかを知るため、本学と同じ養成課程がある富山富山国際大学と熊本学園大学にヒアリング調査を行い、本学課程の進むべき方向性を検討したので報告する。

Keywords：保育士養成、社会福祉士養成、カリキュラムポリシー、専門職養成課程、大学教育

背景1：社会福祉士国家資格の活用可能性の広がり

社会福祉士とは、1987年の「社会福祉士及び介護福祉士法」を根拠法に持つ、日本におけるソーシャルワーカーの国家資格である。高齢化対策における介護・福祉の充実という政策の流れの中で制度化されたが、現在は高齢・障害分野にとどまらず、暴力や虐待、貧困や社会的排除への対応、滞日外国人や外国にルーツを持つ家庭の支援、長期の引きこもり等で支援がなければ社会への参加・適応が難しい人に対する相談援助など、幅広い社会ニーズに対応することが期待されている。

子ども分野のソーシャルワーカーである児童相談所の児童福祉司は、社会福祉士資格が任用条件となっている。乳児院や児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設などに配置される家庭専門相談員（ファミリーソーシャルワーカー）も、社会福祉士または精神保健福祉士が任用要件となっている。家庭専門相談員は、社会福祉資格

がなくても任用可能だが、資格がなければ5年の実務経験が必要である。

教育分野では、小・中・高校への学校ソーシャルワーカー（以下、SSW）の配置が進み始めている。2018年度の文部科学省の予算案では、2019年度の全国のSSW配置事業に1,978百万円、10,047人の雇用が計上され、各中学校区に1人程度のSSWの配置を進め、教育相談を充実させる方針が示された。SSWは国家資格ではないが、公認心理師等の心理系の資格、社会福祉士、精神保健福祉士などのソーシャルワーク系の資格を土台に養成研修を受けることとなっている。教育領域のソーシャルワークニーズの高まりを受け、新カリキュラムから実習先に学校が含まれるようになる。

保育分野では、保育所等における要支援児童等への支援体制の強化を図るため、保育士等有する専門性を活かした保護者の状況に応じた相談支援を行う「地域連携推進員（仮称）」の配置が2019年度の補正予算案で予算化された。2020年度は補助金ベースで394億円が計上されたが、新

1. 宮城学院女子大学教育学部教育学科

型コロナウイルス感染症の影響もあり、加配状況の先行きは見通せない。今後注目したい動きである。

背景2：質の高い「保育教諭」養成ニーズの高まり

2006年の「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」成立・施行により、幼稚園と保育所を一体的に運用する認定こども園が生まれ、その数はゆるやかに増加している（表1）。2019年度からは幼稚園、保育所、認定こども園等（以下、保育所等）の利用料の無償化が始まっており、少子化が進む中でもこれらの施設の利用者の増加は見込まれる。

幼保無償化には、女性の就労・社会進出を促進し、経済を活性化させようとする意図と、子育ての負担を軽減することでの少子化の抑止、質の高い就学前教育を受ける機会を全ての子どもに提供して、就学後の学力に影響する子どもの非認知的能力の発達を促す意図などがある。3-4歳時の教育の質は、その後の学業成績に影響を与え、将来的な所得向上や生活保護率の受給率の低下につながる可能性が、複数の調査から示唆されている（浜野隆、内田伸子、2011）（国立教育政策研究所、2012）（日本財団、2018）。

したがって、これからの幼児教育に携わる保育教諭には、適切な家庭教育の元で育つ子どもだけでなく、所得が低く、あるいは社会的に不利な状況での子育てを強いられている家庭や、不適切な養育を受けている子どもに介入し、適切な教育によって肯定的な変化を起こす能力が、今以上に求められるようになると予測される。しかしながら、教育と保育を一体的に提供し、子どもの発達や環境の影響、特性に見合った適切な養育が提供できる質の高い保育教諭の養成は、短大や専門学校のミニマムなカリキュラムでは難しい。低所得、養育困難、虐待等の不適切な養育による子どもの発達の阻害に介入するには、教育と同時に福祉的介入が求められることを考えても、4年制大学で社会福祉制度の知識やソーシャルワーク技能を持つ

表1 厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ（平成31年4月1日）」

	保育所	幼稚園	特定地域 保育事業	幼保連携 こども園	幼稚園型 こども園
2015 (H27)	23533	11674	2737	1931	582
2016 (H28)	23447	11252	3879	2790	743
2017 (H29)	23410	10878	4893	3673	871
2018 (H30)	23524	10474	5814	4521	1033

<https://www.mhlw.go.jp/content/11907000/000544879.pdf> (2020年3月30日)

た幼児教育の専門職を養成することは、社会のニーズに応える合理性があると言える。

背景3：社会福祉士養成課程のカリキュラム改定

社会福祉士国家試験の受験資格を得られる課程は、4年制大学の養成課程を卒業する他に、短大や専門学校を卒業し実務経験を経るなど、複数の取得ルートがある。資格発足時の養成課程は13の講義科目と演習、実習の15科目から構成され、高齢社会の到来に備えた専門資格として整備された。2000年の社会福祉基礎構造改革後には社会福祉サービス利用者の権利擁護の観点から養成課程が見直され、権利擁護の学習が強化された。2009年度入学者から適用され、2020年度入学者が最終年度となっている現行のカリキュラムは、講義19科目と演習、実習の21科目である（厚生労働省社会・援護局、2007）。

この現行カリキュラムが見直され、2021年度入学者より新カリキュラムがスタートした。見直しの方針は、社会福祉を必要とする人々のニーズの多様化・複合化に対応できる人材育成である（厚生労働省社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会、2018）。これからのソーシャルワーク専門職には、社会格差の拡大、差別の解消と社会的包摂、虐待や暴力の背景にある家族問題への注目などから、人々が暮らす地域の中で、隠されたニーズを把握し、支援につなぐ力量が求められるとして、総合的な能力の向上のための実習時間が60時間増えることとなった。総履修時間は据え置かれるため、科目数は19科目から17科目に減少するが、選択科目がなくなりすべての科目が必修となった。また、従来の介護福祉士養成課程

表2 2校の実習科目名・単位数・実習実施の時期の比較

熊学	保育実習	幼児教育実習	社会福祉実習	
2年	保育ⅠA（保育所）2単位（12日間）	教育実習Ⅰ（幼稚園）2単位（12日間）	SW実習Ⅰ（見学のみ） （8月上旬に2日間）	
3年	保育ⅠB（福祉施設）2単位（12日間） 保育Ⅱ（保育所）2単位（12日間） 保育Ⅲ（福祉施設）2単位（12日間）		SW実習Ⅰ・Ⅱ（2単位）（23日間）	
4年	子ども家庭福祉実習 ※資格に関係ない実習（12日間）（幼稚園・保育所・福祉施設等）	教育実習Ⅱ（幼稚園）2単位（12日間）	SSW実習（2単位）（10日間）	
国際大	保育系実習	幼児教育実習	小学校教育実習	相談援助実習
1年次		幼稚園教育実習Ⅰ（5日間）		
2年次	保育所実習Ⅰ（2週間） 施設実習Ⅰ（10日間）			
3年		幼稚園実習Ⅱ	介護等体験 教育実習	相談援助実習Ⅰ・Ⅱ（25日間）
4年	保育所実習Ⅱ（2週間） 施設実習Ⅱ（2週間）			SSW実習Ⅰ（不定期） SSW見学実習（不定期）

2019年度の3校の学生便覧を参考に筆者作成

表3 学校概要比較表

	幼免一種 取得可能 大学数	うち指定 保育士養 成施設数	指定保育 士養成 施設数	社会福祉 士養成校 (大学)数
北海道ブロック	7	6	31	9
東北ブロック	16	10	45	14
宮城	7	6	15	4
関東ブロック	75	65	204	59
中部ブロック	50	42	118	29
富山	2	2	6	2
近畿ブロック	61	54	139	38
中・四国ブロック	40	36	85	24
九州・沖縄ブロック	28	21	66	23
熊本	4	3	7	4
合計	277校	234校	688校	196校

平成30年度の厚生労働省、文部科学省の養成施設一覧を元に筆者作成

との共通部分が削減され、精神保健福祉士と共通する内容が増えた（社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室，2019）。

社会福祉士養成課程を擁する多くの大学は、複数の資格取得が可能であると謳っている。社会福祉士と組み合わせることで取得できる資格には、介護福祉士や精神保健福祉士などの福祉系資格以外に、保育士、司書教諭を含む各種教員免許などがある。しかし、社会福祉士になるためには国家試験に合格する必要があるため、養成課程を擁していても合格率が低ければ入学希望者には選ばれない。社会福祉士試験の合格率は全国平均が約30%である

ことから、各養成校ともこの合格率を目安に学生を指導している。

社会福祉士資格取得も含めた体系的な社会福祉教育を幼児教育・保育領域のカリキュラムに加えて提供することは、現在求められている幼児教育分野の高度人材育成という社会ニーズに応える意味でも、大学で複数の専門的な学びを深め資格を取得したいと希望する学生のニーズを満たす意味でも重要と考える。しかし、社会福祉士養成課程の新カリキュラム導入に伴い、3資格取得できるカリキュラムを縮小する動きが出ている。

このような中で本学は、社会と学生のニーズを両立するために、新カリキュラム移行後も3資格取得可能な時間割を維持することを決定した。そこで、同様の課程維持を決定している他校から教育上の工夫を学び、課題を共有することで、幼児教育・保育の高度人材育成の発展・向上を目指す時代のニーズに応えた人材育成に向けて、本学の育成の方法論を再検討することとした。

調査の目的：幼児教育における高度人材育成の要素としての社会福祉教育の意味付けを探る

視点1) 3資格取得課程の学びによってどのような人材育成を目指しているのか

視点2) 3資格取得課程で学ぶ学生の課題・リス

クは何か・どのように乗り越えているか
視点3) 3資格取得課程を維持する上での課題・
リスクは何か・どのように乗り越えているか

日程及び調査対象：

富山国際大学 2020年2月17日(月) 14:00～
17:00

熊本学園大学 2020年2月19日(水) 10:00～
12:00

結果：

1. 大学の概要

<富山国際大学>

教育ミッションに「教育と福祉のハイブリッド」を掲げ、地域の教育人材の確保を目指している。学生の学びの選択肢を多様に確保する意味から、コース制は設けていない。学生自身が必要と考える資格を選び、その資格に必要な科目を履修していく「学生自身の学業マネジメント」を徹底している。

多様な資格を取得できるのが魅力で、資格取得課程維持の重要性が組織内で共有されている。学部運営は全員教員が行い、実習助手や専任の事務職員はいないが、授業を持たない連絡調整担当教員が1名配置され、現場との連絡調整を担っている。実習マネジメントは学生が所属するゼミ担当の専任教員が行っている。卒業研究は必修である。
<熊本学園大学>

社会福祉に強い私立の総合大学で、健康や福祉にかかわる多様な資格が取れるのが魅力である。

幼免一種と保育士取得は子ども家庭福祉学科で開講されており、社会福祉士は社会福祉学部のすべての学科(社会福祉学科、福祉環境学科、子ども家庭福祉学科、ライフ・ウェルネス学科)で取得できる。社会福祉学科は二部制で、SSWのコースを二部に開講することで、1校内ダブルスクールを実現している。3資格取得は可能だが、4年間で取得するには保育士国家試験を受けなければならない。

子ども家庭福祉学科は短大保育科を前身とし、

長く地域に人材を輩出してきた。保育士養成校が県内に4校のみで、新幹線の開通で近接する福岡県に人材が流出しやすくなったことから、地元保育人材を残す役割が期待されている。

2. 時間割の構造と資格取得の考え方

<富山国際大学>

4年間通底して教える「子ども育成学」を軸に、1年から4年までに3資格の必修単位と教養科目を配置して、履修しやすい工夫をしている。社会福祉士養成課程に必要な科目は主として3・4年生に配置されている。1年次のキャリア形成の講座で教員、保育者、福祉職のそれぞれの魅力を伝え、2年次に自分の軸となる学びを決めて、徐々に方向が分かれていくが、コース制ではない。

資格取得の定員を設定はなく、社会福祉士受験資格取得希望者は例年20名程度である。入学時からの一貫したキャリア支援教育と、学生自身が学びのマネジメントをするという方針が、学びのモチベーションの維持につながっている。キーパーソンは学生が所属するゼミ担当教員である。

幼免一種と保育士、社会福祉士とSSWはセット取得が想定されており、「幼保」「小学校教諭」「社会福祉士・SSW」の3種類のパターンから1つまたは2つを組み合わせる履修できる。時間割上5資格取得可能だが、現実的には4資格までで、年1～2名が4資格取得する。「幼稚園教諭一種・保育士・社会福祉士」の組み合わせか、「小学校教諭・社会福祉士」の組み合わせで取る者が多い。
<熊本学園大学>

子ども家庭福祉学科の学生が社会福祉士養成課程を両立する選択は特例的であり、取得希望者に対する履修上の配慮はない。実習演習は他学科と共通で履修し、学部全体の実習・演習マネジメント担当者と学生が相談しながら進めている。

3資格取得希望者は、保育士の国家試験を在学中に受験し、合格しなければならない。3年次の保育実習と社会福祉実習の日程が重なっており、どちらか一方しか実習できないためである。保育士国家試験は大学または短期大学で62単位取得

していれば在学中でも受験できるので、3資格取得希望者は2年次終了までに62単位履修し、3年次はソーシャルワーク実習を選択して、保育士は国家試験を受験する。保育士、社会福祉士のいずれの国家試験も合格すれば、卒業と同時に3資格取得できる。SSWを取得したい場合は、4年次にSSWの実習をする。教員免許取得者はSSW養成課程の教育系科目の履修が不要で、精神保健とSSW論、SSW演習、SSW実習指導及び実習を取ればSSW認定資格が取れる。ソーシャルワーク実習と事例研究は3年次に行い、4年次は必修のゼミレポートと国試対策、公務員試験受験も含めた就職活動が中心となる。

3. 実習マネジメント

<富山国際大学>

実習マネジメントは全体の調整を担当する教員が行い、社会福祉関係の実習は学生が所属するゼミ担当教員が行う。社会福祉を担当する専任教員は3名で、実習時期は1年後期「幼稚園教育実習Ⅰ」→2年前期「施設見学」→2年後期「施設実習Ⅰ」→3年前期「介護等体験」→夏休み「幼稚園教育実習Ⅱ」→3年後期「教育実習」→3年春休み「社会福祉実習」→4年前期「保育実習Ⅱ」「施設実習Ⅱ」「スクールソーシャルワーク実習」という流れであった。指定の実習以外に「富山に学ぶインターンシップ」という、80時間の見学実習があり、実情に合わせて学生自身が日程調整し、現場に向かう通年科目であった。実習指導も日誌もない現場体験で、配属先の多くが小学校であった。就労前に現場に慣れる職業体験の意味があり、採用後のリアリティショックを和らげる意味も持っていた。

社会福祉士実習は社会福祉協議会の配属を中心とし、児童相談所や福祉事務所などの行政機関、入所施設（障害者・救護）と組み合わせて行う。学生の自宅近くの社会福祉協議会に配属するのは、実習時期が2月で豪雪地帯のため、交通機関の乱れがあっても通えることを重視していた。

<熊本学園大学>

子ども家庭福祉学科の実習調整担当職員は1名で、幼稚園教育実習、保育実習の調整に対応していた。地域に競合校が少ないため学校間の実習調整は不要で、実習期間は年度ごとに決めており、実習先の園の都合で時期がずれる場合もあるという。社会福祉士を取得したい場合は、2年生までに62単位取得して保育士国家試験の準備をしなければならないが、それ以外の学生は余裕を持って学ぶことができる時間割であった。

社会福祉士養成課程は3年次に社会福祉実習、4年次にSSW実習が入るが、SSW実習は社会福祉士養成課程の者しか受講できない。SSW取得コースは二部に開講されており、SSWを取る場合は一部と二部のダブルスクールとなる。

4. 学士教育と専門職教育の両立

<富山国際大学>

CAP制は導入しているが、履修規定に「免許・資格を取得する者は単位の上限を超えて履修できる」と加えてあり、国家試験の受験や教職に関する科目には制限が適用されない。

卒業研究論文は必修で、専門ゼミに所属し各自卒業研究を行う。ゼミは1年次から所属するが、1、2年のゼミは初年次教育の位置づけで、担任制に近い。1年と2年の担当教員は異なり、大学の履修になじむまでの学生指導、論文や実習に必要な基礎知識・技術をゼミナール形式で学ぶ授業が展開となっていた。3、4年は同じ先生の専門ゼミに所属し、実習と卒業研究を行う。進路と資格取得、実習指導と研究論文の作成を学生自身が無理なく履修できるよう伴走的に指導するのが、専門ゼミの担当教員の役割であった。

カリキュラムの軸は必修の「子ども育成学（1～4年）」と「キャリア支援講座（1～4年）」で、子ども育成学は学校教育だけでなく地域全体の子育てを視野に入れてカリキュラム化されており、様々な現場の実践者の講話や見学、フィールドワークなどが含まれていた。キャリア支援講座は、1、2年次は幼稚園教諭・保育士・社会福祉士・

小学校教諭の4つのキャリアに共通する文書作成技術、一般教養やプレゼンテーションなどを学び、3、4年次は就職対策としての小論文や面接練習、社会福祉士国家試験対策講座、教員採用試験対策などを行っていた。この2科目を通して、学生自身が適性や将来の希望を具体的に考えられるようにするとともに、実用的な知識・技術を取得させることが意図されていた。学生の進路変更希望にもできるだけ沿えるよう、4年次に2年の科目を遡って履修できる時間割が組まれており、学生にとっての柔軟性が担保されていたが、教員の負担は大きい時間割であった。

学生は3年生までに能力や可能性を見極め、取得する資格を決定する。学業不振などの支援は原則としてゼミ担当教員が行い、教員間の連携により柔軟な個別支援対応をしていた。

<熊本学園大学>

卒業研究は選択、卒業演習のゼミレポートは必修で、卒業研究の選択者は少ないとのことだった。ゼミレポート以外に卒業学年が取り組む、社会福祉士養成課程の実習報告書、個別支援計画または地域支援計画の作成は必修課題となっていた。

子ども家庭福祉学科で社会福祉士を目指す学生は最終的に保育・幼児教育よりも、他の福祉系進路を選択することが多いとのことだった。GPAは導入しておらず、上限単位の定めはあるが、上限を超えて単位を取る学生はいないため、新カリキュラムに移行してもCAP制の上限単位の問題は生じないと考えていた。

5. 国家試験受験・就職・公務員受験対策

<富山国際大学>

国家試験対策は授業の一環（キャリア支援講座4年）で行い、社会福祉担当の専任教員が担当していた。公務員試験は外部業者による有料の学内講座が開講され、学生が私費で受講していた。

社会福祉士専門科目は3、4年生に配置されていたが、国家試験科目「現代社会と福祉」が3年生の通年の必修科目で、基礎学習の扱いであった。

卒後の進路は小学校教員の希望が多く、県庁や

独立行政法人などの公務員・準公務員の希望も多い。就職先は県内が多く、地元志向が強い。富山国際大学の国家試験合格率は高く、現役合格率は8割以上、毎年全国順位上位校にランクインしている。

<熊本学園大学>

国家試験対策は社会福祉学部他学科と合同で行い、合格率は20%~30%台だが、子ども福祉学科に限ると高いとのことであった。公務員受験対策は外部業者の有料講座の学内開講で、社会福祉に特化した受験対策はしていない。4年次は授業が少ないため、就職活動や国家試験対策、採用試験の勉強にあてられる。就職先は県内が多く、子ども福祉学部は幼稚園、保育所が多いが、社会福祉士取得者は福祉関係に就職する方が多い。

総括1：3資格取得課程で目指す養成の考え方

幼稚園教諭一種、保育士、社会福祉士の3資格取得可能な2校の養成方針は異なっていた。

熊本学園大学の軸は社会福祉学で、県内の福祉人材の育成と、大学院、研究所による社会福祉研究拠点の機能を重視していた。熊本県内の指定保育士養成施設は4校、大学は2校のみという環境が、福祉領域の多様な資格取得が可能なコースの整備という方向性の基盤であった。資格取得教育は3年次までに終わらせ、4年次は資格要件に関係ない配属実習（名称「子ども家庭福祉実習」）で幅広い職場を体験させ、職業イメージをつかませていた。並行して就職活動や公務員試験、国家試験の勉強を学生自身が進め、自分の力量や適性に見合った進路に導くことで、地元に残る福祉人材の育成を図るのが熊本学園大学の養成戦略であった。

子ども福祉学部の卒業生は、幼稚園・保育所が6割、医療・福祉と公務員がそれぞれ1割弱、25%弱がその他一般企業や各種団体に就職していた。幼免一種、保育士に加えて社会福祉士を取得したい者は、福祉経営を目指している学生が多いと聞いた。

一方で富山国際大学は、地元の「産業」と「教

育」を担う人材の育成が軸であった。平成27年度COC+拠点大学「とやま地域創生人材育成プログラム」に採用されており、インターンシップや産学協同によるビジネスブランディングに積極的であった。子ども育成学部においても、実務的・実践的な人材の育成が重視されていた。教育を特徴づける「富山に学ぶインターンシップ」は全学共通科目で、授業の空きコマなどを使って小学校に出向いて体験学習を積むものであった。責任が少ない環境で現場の肌感覚を知り、学校勤務のイメージを膨らませたり適性を判断させたりする効果があり、就職後の定着率の向上が意図されていた。

専門教育では、3年間を通じたコアカリキュラム「子ども育成学（1年子ども育成入門、2年子ども育成論、3年子ども育成専門演習）」と、4年間通年で行われる必修のキャリア支援講座により、社会に出てから必要になる実践的な技術の向上と、職業準備教育を体系的に積み上げていた。社会福祉士を持つ教員を現場に送ることで、地元の教育力の底上げを図るという戦略が具体化されていた。

総括2：3資格取得課程の学生の課題とリスクマネジメント

両校とも、大学で取得できる資格が多いことは、高校生の進路選択上非常に重要であると認識していた。そして、資格取得を目指したものの学業が振るわず、あるいはその他の課題で履修が進まない学生の対応が課題であることも共通していた。

資格取得優先で大学を選択したが入学後にカリキュラムが合わず、進路変更したいという問題に、総合大学である熊本学園大学は、他の福祉系課程への転専攻や転学科・転学部が検討できるように支援していた。幼稚園教諭や保育士は目指す職業像が明確で、3資格を目指さなければカリキュラムが緩やかで余裕をもって学べることから、進路変更希望は少ないとのことだった。

富山国際大学は必修科目が多く、時間割が非常にタイトで4年間ほとんど空きコマがない。入学後の迷いが生じないように、オープンキャンパス

等で志願者に大学の特徴を詳しく説明し、教育ミッションの周知を図っていた。学力不振やその他の支援を要する学生には1, 2年生の基礎ゼミの担当教員が対応することになるため、少人数の初年次教育クラスで学生の特徴や適性、傾向をつかみ、節目ごとに生じる課題に対応しつつ、徐々に職業選択や進路の方向性を見出させていく丁寧な指導であった。3年次までに学生自身が適性を見極めて進路を決めるので、コース制や成績の足切りがなくても適切な資格数を選びとっていき心配ない、という言葉から、学生の能力に対する教員の信頼を感じた。

総括3：3資格取得課程を維持するための課題とリスクマネジメント

本調査では、新カリキュラム導入で実習時間が増えることが、3資格の取得課程の維持を困難にすることを想定し、その対応を取材したいと考えていた。2校とも、実習時間が増えても3資格取得できる課程は維持できると考えており、取得可能な資格を減らすことは考えていなかった。

CAP制による単位の上限は両校とも定めていたが、熊本学園大学は半期30単位、上限49単位で、上限を超えて単位を取ろうとする学生はいないと聞いた。富山国際大学は半期22単位であったが、資格取得に必要な単位は22を超えて取得できるという規定から、社会福祉士養成課程や教職に関する科目はCAP制の単位に含まれていなかった。

富山国際大学には幼稚園教育実習、保育実習、小学校教育実習、相談援助実習に加えてSSW実習もあるため、新カリキュラム下では実習運営が難しくなるのではないかとの問いには、SSW実習と同じ時期に少しづらして10日間の実習を増やせば対応できるという答えであった。両校とも、資格取得は高校生が進路を選択する時の大きな動機付けであり、資格の数を競うわけではないが、取れる資格が多いことは重要で、積極的にアピールしていくべき、と口をそろえた。

社会福祉士は国家試験合格率が重要である。熊

本学園大学は子ども家庭福祉学科の合格率が高くても全学の結果で比較されるため、合格率のアップが課題とのことだった。富山国際大学の合格率は全国上位であることに加え、北陸ブロック内に競合校が少ないため、北陸で社会福祉士を目指すなら富山国際大学という理解が進路指導に浸透していた。しかしカリキュラム維持に対する教員の負担が大きく、質の高い教育を維持するには、教員の努力のみでなく、運営面の理解と業務の適正化が求められていた。教育と運営が切り離されていることで良い面もあるが、教育側の負担が運営に伝わりづらい構造になっていた。

考察：幼児教育専攻の人材育成戦略に必要な要素

幼免一種、保育士、社会福祉士の3資格取得可能な他校の調査を通じて、本学の今後の養成課程の方向性に多くの示唆を得ることができた。

新カリキュラム下でも3資格取得課程が維持できるのかという当初の疑問に対しては、幼稚園教諭一種免許状、保育士、社会福祉士の3資格については、授業マネジメントを工夫すれば十分維持が可能という確信が得られた。実習時間が増えても、4年間にバランスよく科目と実習を配置すれば、キャリア支援と国家試験対策と卒業研究が並立できる時間割は可能である。

教育学部内に社会福祉士養成課程がある本学にとって、富山国際大学の取り組みは非常に参考になった。富山国際大学では入学時から一貫してキャリア支援教育を行い、将来のビジョンを示しながら学生自身に考え、選択させる指導によって、基礎学力の格差を是正しつつ、教育の実践力を培うことに成功していた。同大では、社会福祉士とSSW認定資格が取得できる課程を置くことで、福祉がわかる教員の養成に力を入れていた。これは、小学校で出会う援助課題を持つ子どもの発見・介入と、両親や家庭の問題に適切に働きかける技術を持った教員が学校に必要とされているというニーズ把握に基づいていた。

インタビューを通じ、教育学部の中で福祉やソーシャルワークを履修させることが、教員と

なった時の子どもの援助に役立つだけでなく、教員自身のバーンアウトや精神疾患による離職防止にもつながるという問題意識があることがわかった。多くの資格を取ることで得られる複数の専門性は、現場で求められる対処行動のバリエーションを増やすことにつながるという理解がされ、実践的なカリキュラムの中で効率的な学習効果が得られていた。

何の資格がいくつ取れるかではなく、養成課程としてどのような人材を育成するか、から、求められるカリキュラムが導き出さなければならない。そのためには、養成したい人材の明確な像に沿った課程設計が必要である。新カリキュラムが本格的に指導する今、本学幼児教育専攻の社会福祉士養成課程で育てようとする人材像を明確化し、共通認識として共有することが重要と考えられた。

そのうえで、複数の学問体系を一体的に学ばせる時には、軸とする学びを4年間に通底させたい。他の学問領域を組み合わせる必要がある。他の学問領域を低学年に配置するか高学年に配置するか共通のセオリーはなく、自由に考えてよいことが理解できた。

現在の本学の幼児教育専攻は、幼児教育と保育の学びを2年までに学び、心理学と福祉学を3年以上に上積みして学ぶ体系である。この組み立ては発達臨床学科発足時の保育を土台に心理と福祉を積み上げたカリキュラムを継承しているためだが、現在のカリキュラムでは教育・保育・心理・福祉を相互に関連付ける共通科目が少ない。富山国際大学の取材で、社会福祉学の中で最も学びにくく、本学の保育課程では選択必修である社会福祉概論Ⅱが共通必修であることに驚かされたが、社会福祉概論Ⅱは哲学や倫理、政策学を含み、抽象的な思考を鍛えるため、教育の専門性に有用だという説明は合理的で得心した。1~2年次に置かれがちな科目だが、実習やインターンシップ後に学びを体系づけるのに役に立ち、社会政策の理解は公務員試験勉強にもなるため、学生の学ぶ動機も維持される。したがって3年次に配置しているという説明には養成課程としての哲学が感じら

れた。

また、熊本学園大学も富山国際大学もコース制ではなく、学生が取得したい資格に合わせて必要な科目と単位数を調べて履修するシステムであった。演習授業に定員があるため、定員を超えた場合はクラスを分けることになるとの話だったが、クラスを分けなければならない状況にはならないという説明は、学生自身が自分の能力を見極めて、資格取得を考えていけるような指導が行われているからだと考えられた。

社会福祉士養成課程は演習実習科目を除き、教えるべき学年は定められていない。社会福祉士資格を希望せずとも、福祉資格に紐づけられた科目には教育や保育、心理に役立つ内容が多く含まれている。前例や習慣的な思考にとらわれず、どの科目が何の役に立つのかを考えて、学生の利益を最優先に、教育学を軸とした保育、心理、福祉学の実践力を高められるカリキュラムを設計する必要があると痛感させられた。

他校の調査を通じて、本学社会福祉士養成課程に現在求められているのは、保育・教育と心理・福祉を統合的に学ぶことがなぜ幼児教育の高度専門人材育成に繋がるのかを、具体的かつ科学的に説明することだと考えた。熊本学園大学の3資格希望者は福祉経営の進路を意識していた。幼稚園の園長には幼稚園教諭一種免許状が、保育所等の児童福祉施設の長には社会福祉士資格が求められるため、管理者を目指すなら4年制大学で幼稚園教諭一種と社会福祉士が取りたいと考えるのは当然であろう。一方富山国際大学では、教育公務員や一般公務員として地域社会を支えるには福祉の学びが必要という理解のもと、厳しいカリキュラムに真摯に取り組む学生の姿があった。

本学も、幼児教育と保育に加えて心理や社会福祉を学ぶことで、どのような有用性を身につけられ、それがなぜ高度専門人材育成につながるのかを、外部に対して合理的に説明できなければならない。相談援助技術は保護者対応に役立つとか、子どもの環境を広く捉えられるなど、「福祉を学んで良かった」感想を卒業生から得ることは容易

である。しかしそれは個人の感想であって、科学的なエビデンスとは言えない。

子どもを取り巻く環境はこの数年で大きく変わり、難しい対応を要する子どもや家庭が増えている。そのような子どもや家庭に有効な介入をするために、本学の学びは役に立っているのか。環境に恵まれない子どもの教育・発達支援に対する実践力は身につけているのか。障害児や医療的ケア児の保育・教育に対してはどうか。これらの問いに答えられる教育のエビデンスを集め、本学の教育効果として発信していく必要があると考える。

結語：

本学は、歴史ある女子大学として教養教育を重視し、多くの資格が取得できることを広報してはいない。幼稚園教諭一種免許状と保育士が取得できることは、本学の養成課程が古いことからよく知られた事実であるため、ことさらに強調する必要がないからである。

しかし、現在の地域の子どもを取り巻く状況を踏まえ、課題を捉えて適切に介入できる実践的な保育者の養成をアピールするには、単に資格が取れるではなく、養成課程として目指す高度専門職の姿を示すことと、社会福祉士養成課程科目がそのためにどのように活用できるかを説明することが必要である。

社会福祉士養成課程には、経営や政策、権利擁護の法体系や哲学など、子どもや保護者の支援だけでなく教育に活かせる様々な学問が含まれているが、そのことが学内外に知られていない。資格取得者数は少ないが、社会福祉系の開講科目の活用可能性は広いのである。社会福祉士養成課程のカリキュラム改定を、この課程の有用性を高めるチャンスと捉え、より多くの学生の学びの機会を保障する方法を検討したい。

謝辞

本調査は、2019年度の発達科学研究所の研究助成によって行われた。発達科学研究所にお礼を申し上げるとともに、報告の公開が遅れたことを

お詫びする。本調査は新型コロナウイルス感染症の拡大が広がりつつある2020年2月に行われ、さまざまなイベントが次々と中止や延期に追い込まれていく中で実施した。感染症の拡大がここまで長引くとは予想もしなかったが、本学のカリキュラム改定の前に調査に行けたことは幸運であった。

駆け足の調査にも関わらず、富山富山国際大学の宮田徹教授、村上満教授には、大学の取り組みを詳しくご紹介いただき、長時間の取材に応えていただいた。熊本学園大学の伊藤良高教授、栗原武志教授には、本学の養成課程が目指す、ソーシャルワークがわかる保育士養成と、その結果としての社会福祉士資格を持つ保育士の輩出と現場での定着について、過分なお褒めをいただいた。3資格を4年間で取得する難しい課程を運営する苦労や課題を共有し、地方に人材を残す重要性や、保育ソーシャルワークの可能性について議論できたことは、これからの本学の養成課程を考える上での大きな収穫となった。2校の先生方に心より御礼を申し上げ、報告のまとめとしたい。

引用・参考文献

- 浜野隆，内田伸子（2011）「1. 幼児期における読み書き能力の獲得過程とその環境要因の影響に関する国際比較研究（1）国際格差班・リテラシー調査班2011年度プロジェクト報告 No. I 『お茶の水女子大学人間発達教育センター平成23年度年報第4号』 No.1 学力格差は幼児期から始まっているか—しつけスタイルは経済格差を凌駕する鍵：日刊中越蒙国際比較調査—
- 国立教育政策研究所編（2013）『生きるための知識と技能5 OECD生徒の学習到達度調査（PISA）2012年調査国際結果報告書』，明石書店
- 日本財団（2018）「家庭の経済格差と子どもの認知能力・非認知能力格差の関係分析—2.5万人のビッグデータから見えてきたもの—」，日本財団
- 厚生労働省社会・援護局（2007），社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律案について，平成19年3月通知
- 厚生労働省社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会（2018），ソーシャルワーク専門職である社会福

- 祉士に求められる役割等について，平成30年3月27日報告書
- 社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室（2019），社会福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて，令和元年6月28日通知